

小石川便り

現役部員から



中等2年
齋藤大河

「ラグビー」とは

僕はこの学校に入るまでラグビーについて全く知らず、運動もあまりしてこなかったため、ラグビー部、ましてや運動部には興味が全然ありませんでした。

しかし、部活動体験に行ってみたところ、サッカーや野球など知っていたスポーツとは全く違い、ボールが楕円形であったり、タックルができた、キックができたりと、新しく知ることばかり。想像していたものよりも良く、他の知っているスポーツとの違いに少しづつ惹かれていきました。

また、幼い頃からやっている人の少ないスポーツだと思い、これなら中学生から始めても遅くはないと思い、ラグビー部に入ることにしました。初めは何も分からず大変でしたが、しかし、先輩や練習に参加していただいてOB・先生の方々に、ひとつひとつ丁寧に、何度も繰り返し教えていただいて、ラグビーの面白さ、

楽しさに気づいてきました。

一度言われたことも他の練習をしてしまうと元に戻ってしまったたり、変な癖があったり、まだ上達のペースは遅いですが、練習を積んで一人前の選手に早くなりたいです。また、これからもラグビーの楽しさをもっと知っていき、部活動をさらに良いものにしていきたいです。他校との練習は人数でやるので、普段小石川では人数が少なくできない練習ができた、他校には同じ1年生の人もいるので楽しくできています。

1年生の中では体が小さくまだ未熟ですが、精一杯頑張っていこうと思います。応援よろしくお願いします。



中等5年
川見響輝

合同チームで受けた刺激を力に！

こんにちは、4月から高校2年生になる川見です。早いもので入部して、4年が経とうとしています。そ

のなかでも今年1年で自分のラグビーは大きく変わりました。昨年4月に、今年は絶対1年生を入れなくては！と思っただけで、入部してもらい、昨年度の活動が開始しました。僕はあまり教えることが上手くないので、教え方がわからず苦労しました。僕のとくに比べ、合同練習を数多くしてこなかったこともあり、初めて大泉に行った時、齋藤が戸惑ってしまっただけで教育する僕の失態だと思えました。

昨夏、高校の合同は獨協・開成・九段に決まり、秋季大会に向けて、獨協での合同練習が始まりました。獨協では、たくさんの刺激を受けました。獨協には合同選抜の3年生が何人もいて、他校の僕にも遠慮なく褒めたり叱ったりしてくれました。僕は中学までのスクラムハーフからウイングへポジションを変え、秋大会はウイングで出場しました。ここで、ウイングを教わったことがいまの合同でも生きてきます。

新人大会は、豊島・東海大高輪との合同で、春の大会も同じ合同となりました。ポジションは、秋大会と同じウイングで14番です。豊島は単独だったチームで、あまりコミュニケーションがうまくいかず、新人大会を迎えてしまい、一回戦で負けてしまいました。豊島には根岸先生という先生がいらっしやうて、自校にも他校に



も全力の指導をされます。その先生からは、最新のスキルや戦術から論理的にラグビーを考えることを学んでいます。

僕にとつて、この1年はかなり実りのあるものでした。見つけた欠点を直して、チームを引っ張っていき、ようなプレイヤーになりたいと思います。

これからも応援よろしくお願ひします。

P.S.

合同選抜のセレクションは、自分では手ごたえがあったものの落ちてしまいました。来年こそは絶対受かります！

(追加情報)

川見君は、春休みの3月21日から4月11日まで、ニュージランドへ、ひとりで短期留学。ホームステイをしながら午前中は、授業。午後は、部活でラグビーという体験をしてきました。またの機会に、ニュージランド体験を報告してもらいます。また、貴重な体験を支援していただいた川見君のご両親に深く感謝いたします。

ラグビー部顧問から

今年度活動報告

山田憲永
遠藤大輔

いつも部員たちへの応援ありがとうございます。

現在、部員は高校1名、中学1名で活動しています。高校は月、木、土曜日に豊島学院での合同練習、中学は土曜日に駒場東邦、九段中等、大泉附中との合同練習を行っています。その他の日は、火、水曜日に小石川で練習しています。

今年度の公式戦の報告をします。

【高校】

《春季大会》不参加。

《秋季大会》合同B（獨協、九段中等、開成学園、小石川中等）で参加。

1回戦 31:5 大泉

2回戦 12:43 法政大学

秋季大会で獨協とチームを組

たことで、川見は大きく成長しました。獨協の3年はスキルが高く、また、ラグビー、仲間に対する態度も素晴らしく、さまざまなことを学ぶことができました。特に獨協の展開力があるBKラインで試合に出場できたことは、とても良い経験になりました。

《新人大会》合同J（豊島学院、東

K.R.F.C News File

2014年6月
2015年4月

「ラグビー部 後援会総会」開催

平成26年6月16日、文京グリーンコート・銀杏で「平成26年度小石川ラグビー部後援会総会・懇親会」が開催されました。

【挨拶】
①会長挨拶／川口明（S42年卒）
②ラグビー部顧問挨拶／山田憲永先生

◇各大会結果等・活動報告／平成26年度計画・チーム編成についての現状
【議事】
議長・川口明／会長
進行役・土屋正隆／現役支援担当
平成25年度活動報告・活動計画

収入項目	H25年度決算	H26年度予算(案)
1 年会費	453,000	450,000
2 寄付	62,000	60,000
3 その他	0	0
4 雑収入	3,091	0
5 受取利息他	93	100
6 収入合計 Σ1~5	518,184	510,100
7 前年度繰越金	982,519	859,132
8 総計 6+7	1,500,703	1,369,232

支出項目	H25年度決算	H26年度予算(案)
1) 学生強化費	107,833	100,000
2) 夏季合宿補助費	0	50,000
3) 大泉定期戦費用	0	0
4) 保険料	0	0
5) 会報印刷費	318,135	130,000
6) HP作成費	20,313	21,000
7) 通信費	61,058	65,000
8) 10校ラグビーフェスティバル費	0	0
9) 会議費	0	0
10) 総務企画経費	25,000	30,000
11) 雑費	5,122	6,000
12) 振替手数料	4,110	5,000
70周年積立金	541,571	407,000
1) 雑費	100,000	100,000
2) 支出合計	641,571	507,000
収支差額 6-10	-123,387	3,100
次期繰越金	859,132	862,232
70周年積立金 累計	700,000	800,000



川口明会長

(1) 村田伸一（S48卒）
副会長：報告
(2) 土屋正隆（S49卒）
現役支援担当：報告
(3) 木村智幸（S59卒）
経理担当：報告
・平成25年度決算報告
・会計監査報告：田野正人／会計監査役（S39年卒）
(4) 平成26年度予算案
提出・説明：木村智幸

全員で承認後、懇親会へ。出席OBの挨拶などの後、最後に出席者全員で小石川ラグビーソングを合唱して散会した。
総会・懇親会参加者、28名。
山田憲永先生 大泉へ異動に
平成16年から小石川ラグビー部の顧問を務めていた山田先生が、平成27年4月1日付で、都立大泉高校・付属中学へ異動されました。長い間、たいへんお世話になりました。有難うございました。大泉は、中学の合同チームでいつも組んでいるため今後もお世話になることとあります。
4月からは、ラグビー部顧問は、

新OBから 平成26年卒 米島莉央

「ラグビーは、仲間がいるから楽しい」
そう、OBの方々に言われた記憶がある。
私は現在、世田谷ラグビークラブの世田谷レディースというチームでラグビーをしている。小石川ラグビー部の経験は、確実に私を生かしている。
基本的に忠実なプレー、低いタックル、キックの技能。他のチームに入った時の存在感の出し方、多くのチームと練習するため知ったさまざまなラグビー。その中でも一番は男子とタックル練習をしてきたために、女子相手ではタックルを怖いと感じないことだろうか。これらの基礎力があつたため、私はチームでフルバックのポジションを得ることができた。
いっぽう世田谷レディースに入つて、私は新たに仲間という存在を得た。ともに練習し、ともに戦い、ともに涙する（女子の）仲間というもの、私はここに至って初めて知った。それは新鮮な感覚で、おそらくOBの方々の言っていた仲間というものはこうだったのだらうと思う。ちなみにその世田谷レディースだが、現在、日本で最弱である。
昨年11月におこなわれた全国大会で、とうとうビリになつてしまった。とても伝統あるクラブチームで、かつては日本一だったのだが、有力な選手たちの新チーム移籍により弱体化してしまひ、今はその座を取り戻すべくチーム改革に取り組んでいる。
私は初めてチーム作りというものに真剣に向き合い、学ぶことが多い。苦しいところではあるが、ここからどれだけ快進撃を繰り広げられるかとても楽しみだ。
こうして私は新たな仲間を得たが、小石川ラグビー部には仲間がいなかったのかというと、それは違う。昔小石川ラグビー部には部員がたく

さんいて、そのころ高校時代をともに過ごした仲間はきっと特別な絆で結ばれていたことだらう。冒頭の言葉を言ったときのOBの方はとても楽しげな表情をしていた。そしてその話はいたい、部員の減少を危惧する話へつながっていった。だが部員の数も少なく、同学年の仲間もいなくて、女子ゆえ公式戦に出ることもかなわなかった私は、部員が多かつたころの先輩の仲間の話に少し嫉妬をしていた。けつきよく部員の減少を止めることもできなかつた私は、その仲間というものに劣等感を抱いていたのだらう。
だが、傾きかけた陽の中、広いグラウンドで二人きりでパスをしていたとき、他校の生徒に交じつて少数の小石川が挑むように練習に参加していたとき、私は確かに満足していたのではなかつたか。
なぜなら、「ラグビーは仲間がいるからこそ楽しい」。それは事実で、けれどそれは人数にはかわりないことだからだ。たつたひとりであっても……いや、ひとりだからこそ、川見は大切な仲間だった。私は決して立派な先輩ではなかつたが、川見はしっかりと良いプレイヤーに育ってくれた。私が、ラグビーを続けることができたのも川見のおかげである。この場を借りて、川見には感謝したいと思う。
高校時代の私のたつたひとりの「仲間」、クラブチームで得た新たな「仲間」。それらの支えがあつたからこそ、私はラグビーを続けることができた。大切なのは、おそらく数ではなく濃さである。
現在のラグビー部の人数も二人。支えあつて、今の小石川ラグビー部をつくっていつてもらいたいと思う。そこには人数の多少は関係ない……といいたいところだが、部の存続のためには部員は必要不可欠なので、最後にそれについて現部員に一言伝えたいと思う。
もし君たちが部員を増やしたいと思うのなら、大切なのは情熱だ。本気で新人部員を望み、彼らの望む環境を提供することが必要だ。小石川ラグビー部を離れて一年、これが私が得た答えである。



世田谷レディースでフルバックとして練習中



懇親会終了後の記念撮影



上は現役、下はOB戦後の記念撮影



上は現役、下はOB戦後の記念撮影

大泉定期戦 開催される

12月28日、大泉グラウンドで大泉との定期戦が開催されました。中学は、大泉附属・小石川・駒場東邦中・九段中等連合と練馬ラグビースクールが対戦。高校は、大泉・武蔵と駒場東邦・九段中等・小石川中等連合が対戦。OB戦も、大泉・小石川・城南・北園と練馬ラグビースクールが対戦など、全部で4試合が行われました。

川見君、ニュージランドへ短期留学

春休みを利用して、川見君が3週間、ニュージランドへ短期留学を個人的に敢行。午前中は授業、午後はラグビーというスケジュールで、本場でラグビー体験。一回りたくましくなった川見君に期待！



迫力あるツーショット

授業終了とともに千石駅へ猛ダッシュ！ 都営三田線・新高島平駅から徒歩10分、荒川河川敷 の「ホームグラウンド」で学んだ大切なこと

なせばなる
なさねばならぬ何事も
ならぬは人の
なさぬなりけり

私の座右の銘である。米沢藩第九代藩主・上杉鷹山公がその子息にあてて贈った言葉として有名だが、どんなことでも強い意志を持ってやれば必ず成就する――、やる気の大切さを説いた言葉である。私はラグビーを通じてさまざまな経験をすることで、必ずやり遂げるという強い意志を持つことの大切さを学んだ。

ラグビーとの出会い

ラグビーを初めて観たのは、テレビ観戦であったが、私が小学生の時に行われた1984年の慶応大学対明治大学の戦であった。いまでもその両者にそこまでの差はないが、高校日本代表を何人も有する重戦車FWの明治大学に対して、無名校出身で体格の劣勢を否めない慶應大学が果敢に挑戦する試合であった。圧倒的に体の大きな選手が、何回

小石川ラグビー部との出会い

高校受験において、小石川高校を受験するには少し内申点が必要となく、進路相談でワンランク下を受験することを進められていた。ワンランク下のT高校にはラグビー部がなく、K高校にはラグビー部があったものの人数も少なかった。強いのは小石川高校であった。高校に進学したら絶対にはラグビーをしたいと考えていた私は、中学の先生や両親の心配を他所にラグビーにより真剣に携わりたいという思いから小石川高校を受験した。その思いが通じたのか、中学の先生が調整してくれたのか（笑）、内申点も一段階上の数字を獲得することができ、何とか念願の小石川高校への入学試験をパスした。

強豪・日大高との対戦

3年生になり、いよいよ目標である春季大会を迎えた。2回戦で強豪の日大高が対戦相手に決まった。我々の目標とする関東大会へ進出するためにはどうしても負けることのできない相手であり、否が応にも練習に緊張感が走る。そんな中迎えた日大二高戦。懸念のディフェンスが相手のミス誘い、アタックではBK陣がゲインを連発。終わってみればセーフティリードを確保しての勝利。みんな抱き合って喜んだことが思い出される。皆の努力が実を結んだ瞬間であった。練習環境が良くなるともできるんだということを皆が体現した。続く相手は都立戸山高校。豪雨での試合となったこと、練習試合でも勝利したことのある相手であったことから、日大二高戦で見せた気力の充実がチームに十分には見られず敗戦し、関東大会出場は潰れた。

私の代は、例年に比べ多くの人間が秋の全国大会予選まで残って練習をしたが、春の大会で勝利した日大二高と再び対戦することとなり、プライドを賭けて試合に臨んできた相手に敗戦して、私の高校ラグビー生活を終えることとなった。

私の代は、例年に比べ多くの人間が秋の全国大会予選まで残って練習をしたが、春の大会で勝利した日大二高と再び対戦することとなり、プライドを賭けて試合に臨んできた相手に敗戦して、私の高校ラグビー生活を終えることとなった。

私の代は、例年に比べ多くの人間が秋の全国大会予選まで残って練習をしたが、春の大会で勝利した日大二高と再び対戦することとなり、プライドを賭けて試合に臨んできた相手に敗戦して、私の高校ラグビー生活を終えることとなった。

私の代は、例年に比べ多くの人間が秋の全国大会予選まで残って練習をしたが、春の大会で勝利した日大二高と再び対戦することとなり、プライドを賭けて試合に臨んできた相手に敗戦して、私の高校ラグビー生活を終えることとなった。



ハワイ前で記念撮影 (平成5年卒の卒業アルバムより)

ランク下のT高校にはラグビー部がなく、K高校にはラグビー部があったものの人数も少なかった。強いのは小石川高校であった。高校に進学したら絶対にはラグビーをしたいと考えていた私は、中学の先生や両親の心配を他所にラグビーにより真剣に携わりたいという思いから小石川高校を受験した。その思いが通じたのか、中学の先生が調整してくれたのか（笑）、内申点も一段階上の数字を獲得することができ、何とか念願の小石川高校への入学試験をパスした。

そんななか入学した小石川高校ラグビー部であったが、前回投稿(会報15号)の泉晋君(日6年卒)が書いておられる通り、校舎の改装工事によりグラウンドは全く使用できず、都営三田線新高島平駅から10分ほど歩いた荒川の河川敷が「ホームグラウンド」であった。恵まれたとはとても言い難い環境ではあったが、ラグビーをしたい一心で入学した小石川高校で、一生懸命に練習に励んだ。朝、授業前に学校へ行き、当時講室にあったウェ

慶應義塾体育会蹴球部から中部電力ラグビー部へ

慶應におけるラグビーの練習は非常に厳しいものであった。「地獄の夏合宿」と言われる合宿では、過呼吸で倒れることもあったが、何とか練習に食らいついた。これも慶應で「本目」になって秩父宮ラグビー場で試合をするという強い意志があったため、どんなに練習が辛くても決して諦めることはなかった。その思いを持ち続けて練習に取り組み、3年時、4年時にはレギュラーメンバーとしてほぼ全試合出場し、早稲田戦2年連続勝利にも貢献することができた。大学卒業後は、中部電力へ入社した。中部地方には緑もゆかりもなかったが、フルタイムで働きかつトップリーグを目指す「仕事もラグビーも流であれ」をモットーとするスタイルに共感をした。現在は現役を引退したが、トップリーグ参入を目指し、スタッフという立場で日々奔走している。小石川高校ラグビー部が始まった私のラグビー人生であるが、常に強い意志を持ってチャレンジし続けてきた。私は今の立場で必ずトップリーグ参入を果たすべく邁進していきたい。

私の代は、例年に比べ多くの人間が秋の全国大会予選まで残って練習をしたが、春の大会で勝利した日大二高と再び対戦することとなり、プライドを賭けて試合に臨んできた相手に敗戦して、私の高校ラグビー生活を終えることとなった。

私の代は、例年に比べ多くの人間が秋の全国大会予選まで残って練習をしたが、春の大会で勝利した日大二高と再び対戦することとなり、プライドを賭けて試合に臨んできた相手に敗戦して、私の高校ラグビー生活を終えることとなった。

私の代は、例年に比べ多くの人間が秋の全国大会予選まで残って練習をしたが、春の大会で勝利した日大二高と再び対戦することとなり、プライドを賭けて試合に臨んできた相手に敗戦して、私の高校ラグビー生活を終えることとなった。

私の代は、例年に比べ多くの人間が秋の全国大会予選まで残って練習をしたが、春の大会で勝利した日大二高と再び対戦することとなり、プライドを賭けて試合に臨んできた相手に敗戦して、私の高校ラグビー生活を終えることとなった。

代が入替わり、私はFWバイスに任命された。我々の代は幸いにも人数が多く、体格も大きい人間が多かったと思う。目標を関東大会出場におき、花島毅先輩(S61年卒)にコーチを引き受けていただき、坂之井先生や松永先生にも熱心にご指導をいただきながら、基本ブレイクの反復練習を中心に皆がひたむきに練習に取り組んだ。

夏は、まったく日陰のない河川敷で小さいテントを張って練習したこと、冬は雪の中、先生やマネージャーがグラウンドのラインを引けるよう目印の杭を打ってくれたこと、翌日野球チームが丁寧なすべての杭を抜かれたことは今でも語り草など、今でもこの時の経験は記憶に残っている。グラウンドの場所は違ったが、先生、コーチ、マネージャーを含めた仲間たちには本当に恵まれていたと思う。



改築前の旧校舎前

最後に

「なせばなる なさねばならぬ何事も」と冒頭で申し上げたが、私は困難にぶつかると、いつもこの言葉を自分に言い聞かせている。勿論自分の目標がすべて達成されるほど人生は甘くないのだろうが、自分の思いを成し遂げるのは、周囲から何を言われても、どんな環境であつても、その思いを信じ続けて達成のために普段の努力を積み重ねたものだけなのは明らかである。小石川高校ラグビー部は部員数が激減、現在は合同チームでの大会参戦ということであり、他学校の生徒と練習時間がなかなか取れないなど環境の厳しさは容易に想像できるが、目標に向け自身のできることを、絶対に目標を達成するんだという強い意志を持って日々、生懸命取り組み続ける是非目標を実現してほしい。小石川高校は非常に自由な校風で知られている。自由というのは、自身のあらゆる選択に常に責任を問われるということである。最後に、先輩風を吹かせて現役の高校生にメッセージすれば、決して強制されずに選択した自分自身の目標に向かい、必ず達成する強い気概を持って日々邁進してほしいということである。「ならぬは人のなさぬなりけり」、目標が達成できないのは周囲や環境のせいではなく、自分の責任である。私自身も小石川高校ラグビー部をスタートにラグビーというスポーツを通じて得た、強い気概を持って何事にも取り組むことを誓い、本稿を締めくくりたいと思う。

私の代は、例年に比べ多くの人間が秋の全国大会予選まで残って練習をしたが、春の大会で勝利した日大二高と再び対戦することとなり、プライドを賭けて試合に臨んできた相手に敗戦して、私の高校ラグビー生活を終えることとなった。

文京ラグビースクール理事長・校長 齋藤守弘 (昭和52年卒)

3年目を迎えた 文京ラグビースクール



スクールのメインキャ
ラクターイラスト/石
森愛彦 (S52卒)

左の記事は「ラグビーマガジン」(2014年4月号)に掲載した文京ラグビースクールの紹介です。2013年4月に開校した文京ラ

グビースクールも、本年4月をもって活動3年目を迎えました。少子化が進んでいる文京区で、どれだけの子供たちが参加してくれるか心配しながらの開校だったのですが、2015年3月末の時点で、正式入校者は92名(うち女子14名)となり驚いています。(実際に練習に参加する子供たちの数は毎回60〜70名程度です)。

・幼児 27名(年少4名/年中9名/年少14名)
・小学生 61名(小学1年12名/小学2年15名/小学3年10名/小学4年17名/小学5年2名/小学6年5名)
・中学生 4名(中学1年3名/中学2年1名/中学3年0名)

指導は、筑波大学附属高校OBや小石川高校OBが中心となり、皆さんの保護者の皆さんにも参加していただいています。小石川OBは、土田さん(S49年卒)、泉さん(H6年卒)が、理事兼コーチとして活動の中心となっています。おふたりとも子供たちからとても慕われています。



文京ラグビースクール部員募集 幼児から中学生まで。文京区で、キミもラグビーを!

昨年4月にスタートした文京ラグビースクール(BRS)。週末には幼児から中学生まで、男女を問わず多くの子どもたちが主に東京都文京区内のグラウンドに集まって、まぶしい笑顔を見せている。みんなが主役だから、やっぱり楽しんでもらいたい。慣れない楕円のボールを抱えながら「グラウンドだからこそ、めいっばいの自由」に触れてほしいと願っている。もちろん、安全面と多少の規律は忘れずに。いつでもオープンしているので、是非参加してみてください。

詳細はWEBにて。http://bunkyo-rugby.org/



2014年11月の大会での試合より

①健全なスポーツ能力の向上と、スポーツを楽しむ姿勢を体得する。
健全・健康に生活していくために

②挨拶をはじめとする、広範なコミュニケーション能力を体得する。
ラグビーは競技の中で最も多い、15人という人数でチームを編成するため、特にコミュニケーション能力が必要とされるスポーツです。どのような場面でも基本となる「挨拶」から、スムーズに競技を行うための、柔軟で動的なコミュニケーション能力の体得までを目指します。

③ラグビー精神を体得する。
ラグビーは、「One for All, All for One」という素晴らしい精神を持つスポーツです。その精神を学び取り、チームプレーの中で活かすことを身につけます。

④競技としてのラグビーの技能・技術を体得する。
ラグビーは、子供たちが日常することの少ない、楕円形のボールを用いて行うスポーツです。また、ボールを前に投げるのできない、特殊なスポーツでもあります。今までに体験したことのない世界で、バスマキック、ステップなどの技術を徐々に身につけ、子供たちが自身の成長の喜びを感じられるようになつてほしいと考えています。

⑤自立・自律のできる個人を育成する。
文京ラグビースクールでは、メンバーとなる子供たちの年齢を幅広く設定しており、また、男女の区別なく受け入れることとしてます。学校生活とは違った環境で、自分がどのような役割を果たすべきかをそれぞれの年齢に応じて考え、他者か



2014年8月の練習終了後の集合写真：筑波大学ラグビー部の学生も一緒です

OVER 60 年う!

小石川ラグビー部OVER 60チームキャプテン 南高之 (昭和45年卒)

OBチーム、この1年

6年目を迎えた OVER 60 チーム

2010年(平成22年)、OBチーム(OVER 60チーム)が結成され、早くも6年目を迎えました。今年、そのうちの昭和40年卒の方々5人が黄バン(満68歳になる年)になります。この間、同年卒の山中達夫さんは残念ながらドクターストップがかかり、オプザバーとして睨みを利かせていただいています。

また、これまでの江戸川高校、北園高校、戸山高校OBの方々に加えて、青山高校OBの2名もメンバーになり、今年も新たに浦和高校OBほかの方も練習に加わる予定です。月に1回の練習馬総合運動場(練馬駅北口徒歩10分、旧中央大学グラウンド)での定期練習と3ヶ月に1回の小石川運動場(小石川サッカー場)での練習を重ね、年に数回の試合を続けています。

昨年も、この欄でご報告させていただきましたが、当時15名を超えるメンバーが集まって、昭和58年卒の清野健二君(早稲田大学ラグビー部OB)のコーチングを受けながら40代の後

輩OB並びに、北園高校ほかの若手OBも加わった中で、現代ラグビープレーとルールを覚え、楽しく練習を行っています。後輩諸君に感謝です。そのおかげで、メンバーの体力はますます増強、技術も向上してきました。何事も、継続は力なり、ということを実感しています。

OVER 60チームは、一昨年12月から5試合を行いました。一昨年と比べ怪我が多く、メンバー構成もままならず、コンディションも安定せず、試合ではこれまで培った力を出しきれませんでした。

平成25年12月7日(土)、晴天に恵まれた飛田給にある日本郵船グラウンドにて、恒例の公立高校OBによる10校ラグビーフェスティバル秋季大会が開かれました。幹事は、愛知県連合(旭丘、岡崎、千種高校)が担当しました。シニア(OVER 56)は、3つのチームに分かれての巴戦になりました。15分ハーフの試合を2試合ずつ。我がチームは、初参加の都立城南OBが中心のチームに敗退。日比谷チームには、自信をもって大勝しました。ミドル(Over 36 Under 55)の試

合には、我が校OBも5、6名が参加。混成チームの中で大活躍でした。この大会では、広いグラウンドの片隅にB・B・Qコーナーが設けられ、試合が終わったシニア世代から順番に乾杯、食事が始まり、アルコールを飲みながらの観戦。後から加わった若手世代には、食べるものが少なくなつたこのクレームもありましたが、その場所でもAMF(懇親会)が行われ、参加各校代表があいさつ。家族も加わって、総勢約140名での楽しいひと時を過ごしました。この場所で、翌年の幹事は、九州連合(修猷館、済々費、鹿児島玉龍)とすることが決定。

平成26年4月26日(土)、辰巳の森海浜公園ラグビー場にて、10校ラグビーフェスティバル春季大会が開かれました。シニアは、前年の秋季大会と同様のチーム構成での試合となりました。そして、またもや、城南高校チームに敗退。もちろん、日比谷高校には大勝。試合後のAMF(懇親会)で日比谷の皆さんの意気消沈した姿が印象にありますが、2連敗の城南チームに対してのわがチームの悔しさもひとしおでした。ミドル以下には、昭和50年代後半並びに平成二桁代卒の若手OBも前年と同様、5、6名が参加。混成チームのメンバーとして、皆活躍してくれました。小石川若手OB中心チームが結成されることを願っています。この試合には、幹事団

の九州連合のOBが多く参加。さすがラグビーが盛んな九州勢、活躍は目を見張るものがありました。なお、この大会後、秋季大会までの間、前年の幹事校で当大会(4校対抗ラグビーという名で始まった)の創設メンバー校(旭丘、新宿、戸山、日比谷高校)の二つ、旭丘高校昭和41年卒OBで当大会に多大なる貢献をしてこられた下郷大氏(名古屋大学ラグビー部OB)が急逝されたことをご報告いたします。

平成26年8月24日(日)、大泉高校人工芝グラウンドにて、大泉定期戦が開かれました。つい数年前までは大泉高校VS小石川高校の交流イベントでしたが、我が校の現役部員激減というさびしい状況の中、これまでとは全く内容が変わつてしまいました。折からの猛暑の中、午前中から試合が行われました。第1試合(高校生)小石川連合(小石川、九段、開成、独協)VS駒場東邦連合。ただ二人の小石川現役の川見響輝くん(中等4年)がキャプテン、SHで出場しました。第2試合(中学生)大泉高校付属・駒場東邦・九段連合VS麻布・開成連合。ただ一人の小石川現役生齋藤大河くんは1年生ということで不参加でした。午後は、第3試合(若手OB)UNDER 49:大泉・小石川・北園連合VSガッツムス(大泉ラグビー部顧問尾高先生が世話をしているクラブチー

ム。日頃からチーム練習をしているガツデムスの圧倒的な勝利で終わりました。

第4試合(シニアOB VS OVER 50)...

小石川OVER 60 VS 大泉・城南連合。

試合キックオフ14時、猛暑真つ盛り、

50歳代前半がほとんどの大泉・OVE

R 60城南チーム連合と15分ハーフの

ゲームが行われました。わがチーム

もいつもはコーチの清野健二君(S58卒)

もSOで出場。体中が煮えたぎるよ

うな熱さに、前後半何度もウォーター

タイムを取り、一進一退のゲームが展

開され、両チームトライずつ5

で引き分けました。中でも、わがチー

ムの相手ゴール前でダブルシザーズ

でのトライは、見事でした。また、試

合終了直前、相手チーム大泉OBに

ゴールに走られトライ寸前のところ、

わがチーム青山OB安藤さん(S47卒)

のインゴールでのチャージでノックオン、

そして、ノースサイド。胸をなでおろし

た瞬間でした。

第5試合(高校生)・・・都立高校交流

戦と称して、大泉高校VS武蔵高校の

試合が行われました。小石川現役生

川見響輝くんは大泉チームにFWで

途中出場しました。

試合後は、試合参加OBメンバーと

の懇親会が近くの勤労福祉会館のレ

ストランにて行われ、猛暑の中の戦い

を反省し、お互いに称えながら、楽し

い時を過ごしました。

福岡で開催された 10校フェスティバル

④平成26年11月29日(土)、福岡県福

岡市市東区香椎浜さわかスポーッ

広場グラウンド(コココラウエスト

の本拠地)にて、10校ラグビーフェス

ティバル秋季大会が開かれました。

前年に九州連合が幹事団に決まった

時から、『ぜひとも九州大会を開いて

欲しい』との声が多くあり、実現し

ました。試合数日前から家族を伴っ

ての九州旅行や試合前日に博多入り

し大学時代の旧友との久しぶりの懇

親など、皆それぞれのスケジュールで、

試合当日、昼12時に晴天に恵まれた

博多駅前に集合。幹事団代表修猷館

OBが用意したバス3台にて試合会

場へ向かいました。会場は、さすがトッ

プリーグの試合会場、天然芝のコン

ディションの整った素晴らしいグラウ

ンドでした。九州以外からの大会参

加者は2年前の秋田大会をはるかに

しのぐ約70名もの人数でした。試合

は、シニア(Over 56)2試合、オール

修猷館(Under 55)VSオール済々

賞(Under 55)1試合、ミドル・ヤン

グA(Under 55)VSミドル・ヤングB、

1試合が行われました。シニアは、A

チーム(城南連合)都立城南8、福岡

城南1、浦和3、大泉1)、Bチーム(日

比谷連合)日比谷8、旭丘4、湘南1)、

Cチーム(九州連合)修猷館5、福岡

4、福岡城南2、玉龍1、北野1)、D

チーム(小石川連合)小石川9、青山

2、北園1、戸山1)の4チームを形成。

各チームとも15人に満たないため

AとC、BとDがそれぞれ不足分を

加勢・交代自由というルールの下、15

分ハーフ前後半でA対B、C対Dの2

試合が行われました。

第1試合は、シニアAチームVS Bチ

ーム戦。前半から我がDチーム4人が

フル参戦しましたが、前半は、Aチ

ームの勢いが勝りトライを重ねまし

た。後半、3トライ差で負けていたBチ

ームに我がチームから更に4人が加勢

俄然チームの勢いが増し立て続けに

トライを重ね、終わってみれば1点

差でAチームが勝利しました。

第2試合は、オール修猷館VS オ

ール済々賞戦(20分ハーフ前後半)。前

後半とも、済々賞の勢いが勝り大差

での勝利となりました。九州勢同士

の迫力のある試合でした。

第3試合は、いよいよシニアCチ

ームVS Dチーム戦。我がDチームメン

バーは、日頃から練習を重ねている小石

川OVER 60チームメンバーで、そこに

Aチームから日比谷OB2名が加勢。

前半は一進一退で試合が続く、C(2

トライ)、D(1トライ)で後半を迎

えたところ、皆、第1試合で頑張り

すぎたのか、SO堀井さん(S43卒)、

CTB安藤さん(青山・S47卒)が続

けて足の故障でリタイア。急遽、大

石さん(湘南・S43卒)、西さん(日比

谷・S38卒)が加勢。しかし、コンビネ

ション・ディフェンスが乱れている間に、

Cチームに立て続けに3トライを重

ねられ、惨敗。悔しい結果に終わ

りました。

第4試合は、ミドル・ヤングA VS

ミドル・ヤングB戦(15分ハーフ前後半)。

Aチームには修猷館が、Bチームには

済々賞が加勢して、これまた迫力の

ある試合が展開されました。

夕刻、ホテルハイアトリージェンシー

福岡にてAMF(懇親会)が開かれま

した。参加者総数130名強。修猷

館高校の司会で、同校OB代表を皮

切りに参加各校代表のあいさつ・懇親

和気藹々の楽しいひと時でした。

⑤本年1月12日(月・祝)、辰巳の森

海浜公園ラグビー場にて、不惑倶楽部

から不惑倶楽部新年試合大会に招待

され、シニアに限らず、若手OBの参

加も望みましたが、残念ながら、OV

ER 60チームのみの参戦となりました。

日頃から交流のあるチームを招いて

の大会で、我がチームのほかに慶應大

学JSKS、同大BYB、早稲田大学G

W、東京海洋大学ラグビー部のそれぞ

れのOB、麻布クラブ(麻布高校OB

中心のクラブ)の皆さんが100名

以上も集まり、混成チームを形成、

不惑倶楽部の各年代チームとの試合

が4~5試合行われました。

我がチームは、Over 65と55er

64erの2つのチームに分かれて参戦。

皆、それぞれのチームで大いに活躍し

ました。参加者多数のため、単独チ

ームでの試合参加は叶いませんでしたが、

不惑倶楽部以外の日ごろ交流のない

方々とのいきなりのチーム編成と試

合は、また格別のもがありました。

2008年(平成20年)に10校目

として参加した。10校ラグビーフェス

ティバルは、昨年の時点で参加校

が24校にまでになり、ますます盛ん

なつてきました。

また、不惑倶楽部ほかからの試合へ

の誘いも多くなり、小石川OBチーム

単独だけでなく、10校ラグビー参加

校OBチームにも声をかけ、一緒に各

イベントに参加しています。そろそ

ろ我が校OB(50歳代以下)の皆さん

も、忙しい仕事・家庭サービスの合間

を縫って、中堅・若手OBチーム結成し、

そして、いろいろなラグビーの仲間と

交流していくのはいいかなと思

います。

OVER 60チームのメンバーは、かつ

ての先輩後輩がいまや皆良い仲間と

なつて、楽しく、たまには激しく、プ

レーを続けていきます。そして、2

年後に創部70周年を迎えます。その

時まで小石川ラグビー部の存続して

いることを、そして、いつまでも小石

川ラグビー部が続いていくことを願

って止みません。

Koishikawa-Rugby, Forever!